

2007年度 研究の国際化推進プログラム「研究成果の国際的発信強化」種目 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 産業社会学部・教授 氏名： 遠藤保子
研究テーマ	モーションキャプチャを利用したナイジェリアのダンスに関するデジタルアーカイブと舞踊人類学研究

### I. 「成果発信」の目的・意義の概要

今回の国際的研究成果発信の目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。

- 1 研究成果発信の目的：**1・1 優れた研究業績を有するベニン大学演劇学部 Prof. Dr. A.O.Asagba 同学部 Dr.Chris Ugolo を日本へ招聘する。1・2 アート・リサーチセンターのデジタルアーカイブを紹介する。1・3 院生も交え研究成果に関する討議や意見交換を行う。1・4 立命館大学とベニン大学との学术交流協定を締結する。1・5 第59回舞踊学会大会で研究成果を公表する。
- 2 研究の意義：**2・1 無文字社会であったアフリカ、特にナイジェリアの芸術は、芸術とは何かを考察する上で、さらにモダン・アート（ジャズ、プリミティヴィズム等）に多大な影響を与えていることから、そのルーツを知る上で必要である。2・2 ダンスをモーションキャプチャにより記録・保存し、3次元CG技術を用いてこれを再現表示するとともに動作のデータ解析を行う研究は、無形文化財のデジタルアーカイブとして、UNESCOなど国際的に期待されている。2・3 モーションキャプチャした動作データからダンスの熟達度、年齢差、性差等を表現する特徴量を抽出し定量的に評価できる。2・4 アフリカなどからは、この分野の先導的役割を果たしている日本に期待と協力が求められている。2・5 院生も交えた研究会を実施することによって、若い人材の国際性を養うことが可能になる。2・6 本学の国際化戦略に際して、アフリカも国際提携をすべき地域である、と指摘している。

### II. 「成果発信」の成果と今後の展開計画の概要

今回の国際的研究成果発信で得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。

- 1 成果発信の成果：**1・1 2007年12月01日～02日 第59回舞踊学会大会参加・学会委嘱研究発表 於：倉敷市（写真1,2参照）  
1・2 2007年12月04日 立命館大学アート・リサーチセンターの紹介及びセンター長と学术交流協定締結に関する討議  
1・3 2007年12月05日 産業社会学部共同研究会開催 於：産業社会学部共同研究室  
1・4 2007年12月06日 アート・リサーチセンター秋期連続講演会開催 於：同センター多目的ルーム（写真3,4参照）



写真1 舞踊学会発表 写真2 学会質疑 写真3 アート・リサーチでの講演 写真4 講演後のワークショップ

- 2 目標の達成度：**以下に示すとおり、目的は、ほぼ達成されたと思われる。
- 2・1 舞踊学会で発表した研究は、高く評価され、来年度の舞踊学会誌に研究内容が掲載されることになった。  
2・2 本学とベニン大学との学术交流協定は、締結にむけて進行中である。  
2・3 上記の研究会開催によって、今日のアフリカの現状や舞踊に関して貴重な知見を得ることができた。  
2・4 院生・学生にとってもコミュニケーション能力を高め、国際性を養う機会になった。
- 3 今後の展開計画：**本学の国際化推進プログラムに研究費を申請しており（国際交流基金：青年の国際交流部門にも申請予定）来年度もベニン大学との学术交流を継続・発展したいと考えている。

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。